

# 自殺「失業が理由」 7割増

## 12年連続3万人超

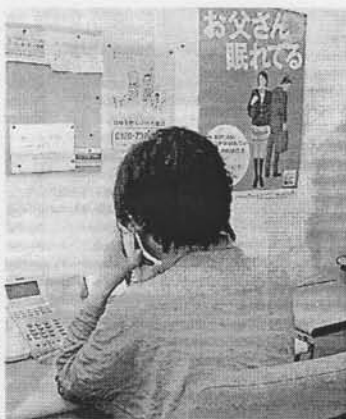
警察庁が13日発表した09年の自殺統計。自殺者総数は3万2845人で08年より1.8%増加、12年連続で3万人を超えた。なかでも20代と30代の自殺率（10万人あたりの自殺

## 20・30代は過去最悪

者の数）は08年に続いて過去最悪を更新し、若年層の自殺の深刻ぶりが浮かんた。原因・動機に「失業」が含まれる自殺者は08年比で7割近く増加した。不況が若年層にも暗い影を落とす。一方、支援関係者らは、職場にとどまる人々にもリスクは広がっていると指摘する。  
【鮎川耕史、合田月美】

NPO法人「自殺対策支援センター」ライフレック（東京都千代田区）が自殺者の遺族を対象に実施する「自殺実態1000人調査」では、若年層が死に追い込まれる実態や遺族の苦悩が浮かぶ。愛知県に住む元会社員の30代男性が自ら死を選んだのは昨年秋。母親はその8カ月前、IT（情報技術）関連会社を辞めて実家に戻った際の息子のことをおがやせこけ、疲れ果

てた様子だった。職探しはうまくいかず、会社の設立にも失敗。明るく振舞っていたが、遺書には何カ月も前から自殺を考えていたと記されていた。母親は「家族の誰かが後を追うのでは。そんな恐怖におびえながら生きてきた。家族を自殺で失うなんて思わなかった。だからこそ、一人一人が身近な問題として自殺を考えてほしい」と訴える。NPO法人「労働相談センター」（葛飾区）



「いのちの電話」相談員—東京都内4月、五味香織撮影

には、年間5000件の規模の相談が電話やメールで寄せられる。最も多い相談は賃金関係だったが、景気が後退した08年秋以降は「解雇がトップだ。スタッフの須田光照さんは、相談を受けた30代男性を気にかけて、自動車メーカーの下請け会社を解雇された後、仕事が見つからず、うつ病と診断されたから連絡がつきにくくなった。「精神的な

打撃を受けやすい人にとっては、解雇が重大なつまずきになるケースが少なくない。若い人にとって、自殺との距離は近くなってきている」と感じている。ライフレックの清水康之代表は「日本では主に中高年の問題だと言われてきたが、20、30代にも広がっている。経済問題が原因になるケースが目立つが、失業だけではない。過酷な労働条件にさらされている人が追いつめられている実態もある」と分析する。過労死の問題に詳しい川人博弁護士は「入社1〜2年の若者の自殺が増えている」と実感するという。40〜50代の社員がリストラで減り、以前より若い層が職場で責任を負うようになった。過酷な負担やノルマが、新入社員にものしかかる。若い社員を取り巻く環境が変わり、ストレスはますます強まっているのに、サポート体制は弱い。そこに問題の一端がある」。川人弁護士は警鐘を鳴らす。警察庁の09年の自殺統計で、原因・動機を7区分に分類すると、「経済・生活問題」を

## クローズアップ 2010

含む人は8377人で08年より13.1%増加し、最も増加率が高かった。さらに多かったのが「健康問題」。1万5867人と最も多く、このうち「うつ病の影響・悩み」を含む人が6949人上った。他の区分は▽家庭問題4117人▽勤務問題2528人▽男女問題1121人など。日本のこの電話連盟が毎月10日に実施する「自殺予防のちのちの電話」には09年、自殺志向者からの相談が9731件あった。原因はさまざまだが、相談者の8割前後は精神科などで治療を受けたことがある人だという。連盟の斉藤友紀雄常務理事は「医療につながっていないながら、『死にたい気持ち』へのケアが受けられていない実態がある」と分析。「生活不安を訴える若年層は多いが、それだけが自殺の理由ではない。自殺を志向する人へのケアのシステムをつくるのが理想だ」と訴える。